

会議録（会議結果概要）

名称	第2回 各務原市緑の基本計画策定委員会
開催日時	令和7年1月24日（金） 13:10～14:40
開催場所	産業文化センター 4階 第2学習室
出席者	川口暢子委員長、大野暁彦副委員長、土田周策委員、石垣時広委員、江口克己委員、渡邊辰巳委員、永田美帆委員、尾関純子委員、斉藤義雄委員、森田起宇委員（代理 岩井健）、村瀬誠委員、中村俊夫委員
議事及び 審議等の 概要	次第 1 開会 2 委員長あいさつ 3 議事 （1）各務原市緑の現況について （2）市民アンケートの結果について （3）緑の基本方針（国）について （4）緑の基本方針（市）について 4 閉会
	1 開会 事務局より説明 2 議事 （1）各務原市緑の現況について （2）市民アンケートの結果について （3）緑の基本方針（国）について （4）緑の基本方針（市）について

議事及び 審議等の 概要	議事（１） 【委員】 ・ 地区公園や近隣公園は市内にどの程度あるのか。それらを重ねてみると人口カバー率があがるのではないか。 ・ 計画の対象区域は市全域で良いか。 【事務局】 ・ 地区公園は６公園、近隣公園は６公園である。住区基幹公園（街区・近隣・地区公園）の人口カバー率は約７７％である。 ・ 今回お示しの分析は居住誘導区域に限っている。今後の将来的な人口集積に対して分析している。計画の対象区域は行政区域全域である。 【委員】 ・ 公園の竣工年を考慮し分析してはどうか。街区公園によっても遊具の数や種類も異なり機能が違う。周辺人口構成や土地利用と公園機能の関係を見たほうが良い。 ・ 内水氾濫実績の原因は何か。 【事務局】 ・ 例えば、下流の水路が小さくネック点によるもの、低みがあるなど地形的な要因によるものが考えられる。 【委員】 ・ 緑被率の算出方法はどのようなものか。緑被率の算出に用いた緑被の種類について、定義を明記したほうが良い。 【事務局】 ・ ５年に一度実施している都市計画基礎調査により緑地を算出した結果から緑被率を算出している。 ・ 個人の敷地内の「緑地」と「建物」という細かい面積までは拾い切れていない。
-----------------------------	--

議事及び審議等の概要	議事（２） 【委員】 ・ 年々パークレンジャー活動が高齢化により活動、存続が難しくなっている状況。自分たちの身近な公園・自然を良くしたいという思いで取り組んでいる。今後も、暑さや高齢化などの問題があるが、他団体の活動状況をお聞きしながら、できる範囲で活動を継続していきたい。 【事務局】 ・ 事前にパークレンジャーさんにもアンケートをとっている。興味はあるが、高齢化や若い世代の共働き等で活動参加は難しいという意見もあり、存続問題は把握している。一方、活動を通してコミュニティ形成が確保されるという意見もある。 【委員】 ・ ボランティア活動が活発になると組織化され、活動時間帯などが限定されやすい。また、よりよい活動のためには十分な活動時間が必要だが、昨今では働き方改革のように、効率的な活動を好む人が増えているのではないか。ボランティア活動は楽しい、やりがいがあって成り立っていることを伝えていく必要がある。こうしたことを計画に書き込むことができるか。 【委員】 ・ 年代別回答者の割合を見てもアンケート結果に偏りがある。今後、公園という制度を持続的に考えていくのであれば 20～30 代の子育て世代がどう考えているかも大事。 ・ さらに、高校生など比較的自己が確立し始めて、不安定な時期にこそ、身近な公園が居場所になりうるかもしれない。 ・ 官民連携の話もある。市内には商工の事業者が多い。公園・緑地についてどのような認識をもっているか意見収集することも考えられる。 【委員】 ・ 農地の緑に対しての認識をどのように感じているのか。今、市の施策は何を進めているのか。 【事務局】 ・ アンケートの自由意見では、管理されていない農地（休耕放棄地）が多いという意見もあった。 ・ 担い手不足の問題があり、農地として引き継がれなくなってしまったことが耕作放棄地につながっている。
------------	---

議事及び
審議等の
概要

【委員】

- ・ 米不足が問題視されている。今後、国の支援の動向を注視している状態。
- ・ 市では水田を含めた農地の集約・集積化を図ることで区画をできるだけ大きくして効率よく農業ができるようにすることで、農業法人に耕作してもらうことなど可能性を検証している。

【委員】

- ・ イチョウ並木が大きく成長しすぎて、落ち葉が滑りやすい、根上がり、幹の太さにより視界不良など何か対策を検討してほしい。

【事務局】

- ・ 市のイチョウ並木は、延長や大きさから全国的にも非常にめずらしい。行政のアプローチ方法と沿線住民の方々の協力あつての賜物である。今は落葉前の剪定により昔のような落ち葉による苦情はほぼない。葉付きもよく緑陰ができ、季節感を演出し、何より綺麗です。これからも市の財産として管理していきたい方針。

【委員】

- ・ 専門家の目から見ても各務原市の緑の管理はかなり質が高い。むしろもっと全国にアピールすべきだと思う。当然、生き物なので枯れることもあるが、この管理の質の高さをどう維持できるかを考えていくべきである。
- ・ 並木を継承したいという市の意思があるのであれば、10 年単位で少しずつ交換していかないと、植栽帯が狭く従来 of 土壌のままという状況では根上がり等の問題もでてくる。それらを含めて質の高い管理を継承して頂きたい。
- ・ 今後、施策を設定する上でのポイントにもなることだと思う。

議事及び審議等の概要	議事（３）（４） 【委員】 ・ 基本理念・緑の将来像については、今は一旦提示された案でよいと思う。今後、具体的な施策を議論していくなかで計画を包括できるようなふさわしい言葉が見つかれば変更すればよい。 ・ 各務原の緑ってこうゆうものだ。という誇りみたいなものを一言で表せると分かりやすい。 ・ 全体的に創って保全して活用するというサイクルで回す視点で施策を考えてほしい。 【事務局】 ・ ４月から新しい総合計画が始まる。策定過程において小学生から大人、事業者等を含め数十回ワークショップを開催し、市中心市街地に大きな公園や緑があり、また郊外に行くと里山があったり、木曽川が流れていたりという「まちと自然のバランス感がちょうど良い」「ほどよい都会感・田舎感」を感じさせてくれるという意見が幅広い世代からあった。 ・ これは各務原市にとって一番自慢できるところだという率直な思いから基本理念・将来像の案として提示させてもらっている。 【委員】 ・ 管理の話について、人口減少下で、ある時代に作ったものを同じ質で維持することは労力を 200%以上出さないと無理である。ある程度自然の遷移に任せてしまうことも場所によっては積極的に作っていくべきであり、次の 10 年を考える上では必須なのではと考える。 ・ 公園はある時代にいっきに作られて、ほとんどの市民は、これまでそれを享受するだけであったが、その在り方では今後は維持できないだろう。公園を使い倒すという観点を持つこと。資源があるにも関わらずそれを活用するという視点が圧倒的に少ない。 ・ 各務原市は産業がたくさんあるので活用したいという事業者の可能性を引っ張り出すような施策が必要になってくると思う。 ・ 質のレベルの高さが一般的に市民にはあまり周知されていない。これまでやってきた歴史がちゃんとあるということを啓蒙活動などで伝えていく必要がある。特に教育機関との連携などもできないか。 【事務局】 ・ 本日出た多くの意見は、施策を検討する上で参考にさせていただく。
------------	--

会議資料	資料 1 各務原市緑の基本計画策定委員会委員名簿 資料 2 各務原市緑の現況について 資料 3 市民アンケートの結果について 資料 4 緑の基本方針（国）について 資料 5 緑の基本方針（市）について
備考	